～～よみがえれ花輪川～～

八千代オイコス かわら版

第５号

平成 19 年 7 月 1 日発行
NPO 法人八千代オイコス
http://www.yachiyo-oikos.jp/

「キリンキッズ」が花輪川にやって来た！

日　時：5 月 20 日(日)　午前 9：30～午後 3：00　　場　所：花輪川
参加者；キリンキッズ：106 名(キッズ：68 名、東京動物専門学校生：34 名
専門学校スタッフ 4 名)　オイコス：11 名

3 月に開催された「やちよ菜の花ウォーク」がきっかけとなり、東葉高速鉄道の方の紹介で加藤代表が東京動物専門学校（川原学園）の方とお会いする機会がありました。専門学校では地域での活動参加を検討されていることもあり、オイコスは花輪川で活動していることから、一緒の活動が展開できないかと話し合いが行われました。
100 名近くの子ども達を引き受けることへの心配もありましたが、受け入れる方向で検討しました。東京動物専門学校は、八千代市大和田新田にある、歴史の古い専門学校で、八千代緑が丘駅（東葉高速鉄道）から、徒歩 12 分のところにあります。

キリンキッズとは、小学生を対象に、子ども達に動物の接し方と飼育方法を学んでもらい、「命の大切さ」を感じて欲しいという気持ちから、創設され会員が 160 名ほどとのことです。
オイコスは花輪川からの落ち口辺りの桑納川を千葉県から印旛沼連携アダプトプログラムとして引き受けています。今回キリンキッズの子ども達と一緒に、オイコスの活動と周りの環境を知っていただき、印旛沼の浄化の啓発活動に結びつけたいと当初の企画から参画してきました。数回の話し合いと、現地の視察などを重ね、いよいよ本番の日を迎えました。

参加者は高学年、低学年の 2 グループに分け、オイコスもそれぞれのグループに分かれて担当しました。緑が丘駅から歩いて、みどり豊かな田園風景と花輪川での生きもの探し、牧場体験、炭やき、桑納川でのゴミ拾いと、約 130 名近くが、体験活動をしました。学生 1 名で、子ども 2 人の面倒を見るという体制で、当初心配した、面倒みれるかな？の心配もなくスムースにできました。オイコスもキリンキッズにとっても、楽しい意義深い活動になりました。（桑波田）

❖ 炭焼きのまなびと体験 ❖

毎年３回は行っている竹炭焼きだが、今回は動物や自然を愛するキリンキッズの子ども達が沢山来るという企画になった。
前日の炭焼きはメンバーの気合が一段と入り燃焼温度や排ガスの色に神経を集中させた。結果は３缶共立派な成果品が出来ほっとした。間もなく到着する子ども達を迎える準備は整った。

午前 10 時 30 分田んぼのあぜ道を一列になって進んで来る第一陣の小学校高学年の約 30 名の姿が見えた。

出来たての竹炭を前に利用方法について話をしたが、何故竹を切るの？木炭との違いは？など質問も積極的だった。桑納川べりのごみ拾い分別もなんなくこなした。昼食は青空の下、思い思いの場所で弁当を広げ美味しそうに食べ、実ににぎやかだった。竹炭の一部は川の浄化実験にと袋に詰め花輪川へ持って行き沈設した。

午後１時、第二陣の低学年生約 40 名が到着。長い道のりだったが疲れた様子は見えず、さすが自然派の子供達だ。午前中に行った花輪川の生き物調査を観察ノートに書き始めた。お互いに確認しながらの作業だった。竹とんぼを飛ばしたり、カラクリ噴水に驚いたり歓声が広場に響き渡っていた。焼いた松ボックリや竹炭は両親に話すのだと全て持ち帰った。

周囲は田植えが終わり苗の緑ジュータンが春風にそよいでいるのどかな一帯である。彼らの得た体験がいつか自然を大切にする心につながっていってくれればと期待は膨らむ。（島）

フリーマーケットに挑戦・・緑が丘ローズハーツふれあいフェスタに初出店

５月 27 日、緑が丘駅前広場で「第４回緑が丘ローズハーツふれあいフェスタ」が開催され、オイコスも初めてフリーマーケットに参加しました。商品は、竹炭・竹酢液・陶器・アクセサリー・靴・置物・衣料等。９時 30 分のスタートから千客万来、まとめ買いをする主婦、父の日のプレゼントにと陶器を抱えて帰った小学生など、若い層が多いのが印象的でした。

場所が良かったのか、熟年パワーの効果か、結構売れた上、楽しいふれあいの場ともなりました。その家には不用品でも再利用されれば「捨てればゴミ使えば資源」の言葉どおり有効に喜んで使って貰えることを実感した１日でした。（小原克子）

《千葉県環境学習受託事業》

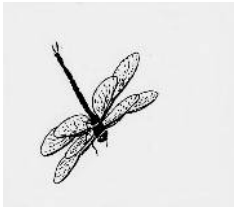
～～参加者募集中～～

“川の学校”

を開催します

暑い夏！

思い切り川の中に入って、水の冷たさ、楽しさを実感！
生き物探し、水調べ、生き物が沢山すめる場所作り、
作戦会議等など自然体験学習しませんか。



日 時　：　8 月 11 日（土） 午前 9 時～午後 4 時 30 分
場 所　：　八千代市花輪川（八千代市尾崎）
集合場所：　**八千代緑が丘駅**　南側モニュメント広場
持ち物　：　筆記用具、タオル、帽子、お弁当　飲み物
　　履替用の運動靴（川で履く）
参加費　：　**無料**
募集人数：　小学4年生～中学3年生　30人
　　（父母・兄姉などの同伴歓迎 ・ 募集人数外）
申込み　：　**往復はがき**に保護者の住所氏名、電話番号、参加者名
　　学年を記入、下記へ（申込み多数抽選）
宛 先　：　〒276-0046 八千代市大和田新田 763-37
　　NPO法人八千代オイコス　事務局　小原　翔
問合せ　：　本誌発行責任者、又は、事務局まで（末尾に記載）

≪食育の推進シリーズ≫（第４回）　～地産地消の取り組み～

「学校給食エコにんじんウィーク」を支援

６月４日～８日まで、市内の全公立小中学校の給食の食材に、“ちばエコ農産物”の認証を受けた八千代産のにんじんを使った「学校給食エコにんじんウィーク」が行なわれました。

やちよ食育ネットとＪＡ八千代市、市教育委員会、市農政課などが連携して実現したもの。自校式給食校を対象とした取組みは前号でお伝えしましたが、今回はセンター給食校も対象とし、期間も５日間に延長して実施されました。

八千代オイコスでは、やちよ食育ネットからの依頼を受け、にんじんの配送の一部を手伝い、この取組みを支援しました。皆、昔は若かったメンバー（！）なので、配送が務まるか多少の不安はありましたが、腰痛でリタイアすることも無く、無事に運び届けることができほっとしています。サポートしてくれた方々お疲れさまでした。（寒川）

★★★　オイコス会員寄稿（第２回）　☆☆☆

オイコスの皆さんが趣味や日頃の活動などを通しての自己紹介、今回はその第2回です。

「緑が消えていく」　　日高　晴子

終の住み処として選んだケアハウスの４階の部屋から見下ろす林が、間もなく開発され消えてゆく運命にあります。2003 年入所した頃、この苑に隣接した林は、荒れ放題で放置されたままの様相を見せていました。苑のフェンスにからみついた藤、葛、スイカズラ、アケビ、ヤブカラシなどは、ほしいままに蔓を伸ばし、ピラカンサの太い枝がフェンスの網目をつき抜け、とげのある枝を広げていました。

苑長の許可を受け、百円ショップで鎌を買い、背丈を越す篠竹を刈り、セイタカアワダチソウを抜き、三年半かけて開いた花壇に、今は初夏の花が咲いています。

食事と風呂のサービスを受けられることがこのような象（かたち）になりました。

林を残すことの大切さを、八十歳の私は伝えることが出来ません。その無念さを抱きつつ爽やかな風通る林を心ゆく迄楽しんでいます。

「歩けて･ボケないで、地域社会に貢献する」

舛田　守良

これが、会社を辞めた時「これから 20 年どのように生きていこうか？」の答えでした。

それからすぐに、身体の為にテニス・山登り・速歩・畑作業等を、あたまの為に放送大学入学・中国語学習・ＰＣによるデータ整理・少しの株等を始めました。

問題は地域社会への貢献で「何かしたいが何をしていいのか分からない」そんな時出会ったのが「エコマインド養成講座」でした。

これは、ほかの講座よりかなりハードでしたが講師は勿論・スタッフそして同級生の皆さんの質の高さに驚かされるやら感心するやら・・・。

「八千代オイコスの川の学校」はその実習の一環で「私の家に近いこと、花輪川が当時始めたばかりのポイ捨て調査中の駒込川と同じ桑納川の支流である」というゴク単純な理由でした。

この花輪川を子供達が自由に遊べる所にという活動に参加し、会員の皆様が自分で考え自主的に行動し、その上、土手を散歩する人達から「ご苦労さま」のひとことが得られたことに感動しました。

つまり、オイコスの活動は、地に足が着いた実活動であることに惹かれ会員にさせて頂きました。これからも宜しくお願い致します

【編集後記】

七夕の時期ですが、「かわら版」も創刊一周年を迎えることになりました。もっとも“おりひめ”“ひこぼし”と違って「かわら版」には年に4回も会うことが出来ますが。

かつて、房総の地を支配した千葉氏の守り神は北極星、北斗七星。市内にもゆかりの寺、神社があるとのこと。夏の夜空を眺め悠久のロマンと悠遠の歴史に思いを馳せるそんな季節でもあります。（geta）

発行責任者 ： 加藤　賢三
事務局＆問合せ：小原 翔
☎：047-450-4663
(メールアドレス)
o-syou@muc.biglobe.ne.jp